



「不死身の特攻兵」を読んで

鴻上尚史「不死身の
特攻兵」(講談社現代新
書)を読んだ。

佐々木友次は陸軍の
九九式軽爆撃機で戦果
を上げてきた操縦士だっ
た。特攻せよと、爆撃
機の爆弾投下装置が外
された。しかし、飛行
隊長は爆弾を投下でき
るように再改装。

佐々木は、特攻命令
に逆らい、急降下し爆
弾投下。それは飛行機
より速く一直線に敵艦
に。そして生還。ある
時、特攻機を誘導する
直掩隊長は無駄に死な
せる事は無いと、途中
で引き返した。佐々木
は九回特攻出撃して生
還。92歳で亡くなった。

参謀本部は

参謀本部は戦局から、
敗戦を予見していたの
に、体面を取り繕い、
若人を特攻に駆り立て
た。志願制と云いつつ

志願するまで追い詰め、
「愛する者の為だ」と志
願させたのだ。

東條首相は飛行学校
で敵機撃墜法の理論を
述べる学生に「違う、
精神で落とすのだ」と
云った。高射砲が届か
ない高高度のB29を落
とせないと「精神がた
るんでいる」と責めた。

そんな東條の「お友
達」がフィリピン軍の
総司令官。米軍が反攻
して来ると台湾に逃亡。
こんな上官が「特攻」を
命じていたのだ。

無駄に死なせた

時速二百kmの練習機
では時速六百kmのグラ
マンに撃墜されるのは
必至。「無意味だから
止めろ」と云うべき作
戦参謀は責任回避の為、
特攻作戦を遂行。自ら
は先頭に立つことなく、
皆さんはどう思われ
ますか？

尾瀬東電小屋

新潟県魚沼市上折立
二〇一四年七月



夏が来たので
思い出した
遙かな尾瀬
五年前・・・

尾瀬戸倉からバスで
鳩待峠へ。二百mほど
下れば尾瀬のピジター
センター。そこから本
州最大の高層湿原、尾
瀬ヶ原。平らな木道を
進むと、日光黄菅、岩
鏡、白根葵、綿菅、白
山千鳥等々、数え切れ
ない花を見ることが出
来る。

尾瀬ヶ原の北東の端
に近いところに東電小
屋がある。

戦前から発電の為、
ダムを造り、尾瀬ヶ原
を水没させる構想があっ
た。その調査の為に建
てられたのが東電小屋
の前身。しかし、自然
保護運動の高まりでダ
ム建設は断念された。
それでも東電が特別保
護区の七割の土地を所
有しているという。

職美展開催中の為、来週は休みます

